

齋賀医院壁新聞

文献情報と院内案内 齋賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< 2020年07月 >>

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

最近の記事

- (07/29) [インフルエンザ治療薬のゾフルーザの予防効果](#)
- (07/29) [入院における新型コロナウイルスに対するデキサメタゾンの効果](#)
- (07/29) [新型コロナウイルスの家庭内感染・韓国からの報告](#)
- (07/27) [新型コロナウイルスの重症化の予測ツール](#)
- (07/25) [5歳以下の小児の情操教育にペットは有効](#)

最近のコメント

- [入院における新型コロナウイルスに対するデキサメタゾンの効果](#) by (07/29)
- [5歳以下の小児の情操教育にペットは有効](#) by (07/25)
- [新型コロナウイルスの解剖例 微小血管の新生](#) by (07/22)
- [原発性胆汁性胆管炎\(PBC\)の新しいバイオマーカー](#) by (07/10)
- [次亜塩素酸水の新型コロナウイルスに対する消毒効果](#) by (07/08)

タグクラウド

カテゴリ

- 小児科(194)
- 循環器(202)
- 消化器・PPI(125)
- 感染症・衛生(131)
- 糖尿病(111)
- 喘息・呼吸器・アレルギー(84)
- インフルエンザ(100)
- 肝臓・肝炎(60)
- 薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導(45)
- 脳・神経・精神・睡眠障害(40)
- 整形外科・痛風・高尿酸血症(30)
- ワクチン(32)
- 癌関係(10)

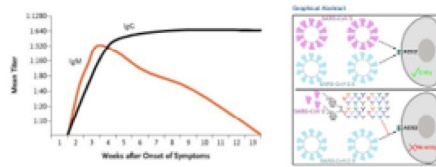
<< [新型コロナウイルスの個人防護服は安全・続報](#) | [TOP](#) | [新型コロナウイルスのパンデミックにおける内視鏡検査](#) >>

2020年04月06日

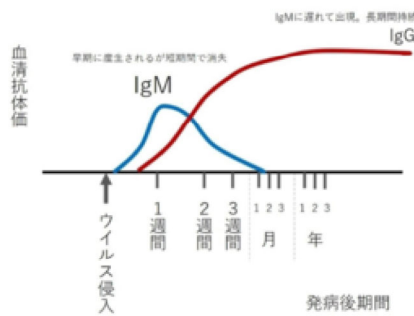
新型コロナウイルスにおける抗体検査

新型コロナウイルスにおける抗体検査

Antibody responses to SARS-CoV-2 in patients of novel coronavirus disease 2019



新型コロナウイルス検査は、ウイルスのRNAを調べるPCR法とランプ法があります。残念ながら保険が適応になったと言っても、現在は一般の検査会社と保険者(社会保険なら組合、国保なら地方自治体)が契約を結ばなくてはなりません。しかし、現実には保険者と市中の検査会社は契約を結んでいないため、開業医から直接に検体を検査会社にお問い合わせしても保険扱いになりません。一方の血液検査で抗体を調べる場合は、15分程度と短時間で測定でき検査の際の医療従事者の暴露もなくて良いのですが、保険適応にはなっていません。どのウイルスでも、抗体には感染の初期に反応するIgMと、ある程度経過してから上昇するIgGがあります。PCR法は感染後早期に陽性となりますが、血液抗体検査ではIgMと言えども1週間の時間経過が必要となります。



今回、武漢から其々の検査における精度を調べた論文が、オックスフォードの雑誌 Clinical Infectious Diseases に掲載されています。

まとめますと

- 1) 新型コロナで入院中の患者173名から、検体を535採取しています。
- 2) 抗体出現率はIgMが82.7%で、IgGが64.7%でした。出現の平均値はIgMが12日、IgGが14日です。
- 3) 一方、PCR法では1週間以内でも陽性率は66.7%ですが、経過により15~35日では45.5%と低下してしまいます。
- 4) 発症から1週間前後の早期では、PCR法と血液抗体法の組み合わせが有効としています。

- [脂質異常\(28\)](#)
- [甲状腺・副甲状腺\(18\)](#)
- [婦人科\(8\)](#)
- [泌尿器・腎臓・前立腺\(32\)](#)
- [熱中症\(7\)](#)
- [日記\(17\)](#)
- [その他\(66\)](#)

過去ログ

- [2020年07月\(16\)](#)
 - [2020年06月\(14\)](#)
 - [2020年05月\(21\)](#)
 - [2020年04月\(18\)](#)
 - [2020年03月\(18\)](#)
 - [2020年02月\(18\)](#)
 - [2020年01月\(19\)](#)
 - [2019年12月\(14\)](#)
 - [2019年11月\(15\)](#)
 - [2019年10月\(18\)](#)
 - [2019年09月\(18\)](#)
 - [2019年08月\(14\)](#)
 - [2019年07月\(14\)](#)
 - [2019年06月\(16\)](#)
 - [2019年05月\(14\)](#)
 - [2019年04月\(18\)](#)
 - [2019年03月\(19\)](#)
 - [2019年02月\(19\)](#)
 - [2019年01月\(15\)](#)
 - [2018年12月\(16\)](#)
 - [2018年11月\(20\)](#)
 - [2018年10月\(20\)](#)
 - [2018年09月\(18\)](#)
 - [2018年08月\(24\)](#)
 - [2018年07月\(18\)](#)
 - [2018年06月\(18\)](#)
 - [2018年05月\(20\)](#)
 - [2018年04月\(19\)](#)
 - [2018年03月\(20\)](#)
 - [2018年02月\(14\)](#)
 - [2018年01月\(14\)](#)
 - [2017年12月\(20\)](#)
 - [2017年11月\(17\)](#)
 - [2017年10月\(22\)](#)
 - [2017年09月\(18\)](#)
 - [2017年08月\(20\)](#)
 - [2017年07月\(23\)](#)
 - [2017年06月\(19\)](#)
 - [2017年05月\(19\)](#)
 - [2017年04月\(22\)](#)
 - [2017年03月\(20\)](#)
 - [2017年02月\(18\)](#)
 - [2017年01月\(21\)](#)
 - [2016年12月\(17\)](#)
 - [2016年11月\(25\)](#)
 - [2016年10月\(22\)](#)
 - [2016年09月\(21\)](#)
 - [2016年08月\(20\)](#)
 - [2016年07月\(26\)](#)
 - [2016年06月\(27\)](#)
- 以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

詳しくは下記の表をご参照ください。

Table 2. Performance of different detectors in samples at different time since onset of patients.

Days after onset	n	RNA		Ab		IgM		IgG		RNA+Ab	
		n(+)	Sensitivity (% 95%CI)	n(+)	Sensitivity (% 95%CI)	n(+)	Sensitivity (% 95%CI)	n(+)	Sensitivity (% 95%CI)	n(+)	Sensitivity (% 95%CI)
Total	173	152 ¹	87.1 (84.4, 74.1)	161	93.1 (88.2, 95.4)	143	82.7 (76.2, 88)	112	64.7 (57.4, 71.8)	172	99.4 (96.8, 100.0)
1-7	94	68 ²	66.7 (56.7, 76.4)	36	38.3 (28.5, 48.5)	27	28.7 (19.9, 39.0)	18	19.1 (11.8, 28.4)	74	78.7 (69.1, 86.5)
8-14	136	67 ³	54.0 (44.8, 63.0)	121	89.6 (83.2, 94.2)	99	73.3 (65.0, 80.6)	73	54.1 (45.3, 62.7)	131	97.8 (92.6, 99.2)
15-30	90	25 ⁴	45.5 (32.0, 59.5)	90	100.0 (96.0, 100.0)	87 ⁵	94.3 (87.2, 98.1)	77 ⁶	79.8 (69.9, 87.6)	90	100.0 (96.0, 100.0)

¹ Two patients missed IgM tests due to inadequate plasma samples. ² One patient missed IgG tests due to inadequate plasma samples. ³ These were 7, 11 and 35 patients had not been performed RNA testing during the 1-7 onset day, 8-14 onset day and 15-30 onset day, respectively.

私見)

上の表からPCR法(RNA)の精度は70%以下です。
 韓国方式では偽陰性が逆に30%程出てしまいます。
 そうは言ってもオーバーシュートの時期を迎えると、韓国方式は俄然精度が上がります。
 血液抗体検査はIgMとIgGを組み合わせれば、1週間後で精度が上がります。
 しかし残念ながら保険適応になっていない点と、開業医の手元には入りません。
 このままではマスクも届かない、多分手続きの煩雑さからお金も届かない。
 国策が愚策に成り兼ねません。
 国内のマスク工場建設と、韓国方式のPCR検査のためのテントの造成をお願いしたいと思います。
 (もう韓国方式を採用する時期ではないでしょうか。専門家会議の尾身さんが、保健所の職員が疲弊していると言っています。
 しかもみんなでワンチームになって戦おうとも述べています。そろそろボールを後方に回す時期ではないでしょうか。)

[新型コロナウイルス抗体 論文.pdf](#)

[他の文献1.pdf](#)

[他の文献2.pdf](#)

[他の文献3.pdf](#)

0 | 0
いいね!

ブックマーク

【感染症・衛生の最新記事】

- [入院における新型コロナウイルスに対するデキサメタ...](#)
- [新型コロナウイルスの家庭内感染・韓国からの報告](#)
- [新型コロナウイルスの重症化の予測ツール](#)
- [新型コロナウイルスの解剖例 微小血管の新生](#)
- [次亜塩素酸水の新型コロナウイルスに対する消毒効果...](#)

posted by 齋賀一 at 18:52 | [Comment\(0\)](#) | [感染症・衛生](#)

この記事へのコメント
コメントを書く

お名前:

メールアドレス:

ホームページアドレス:

コメント:

